

夙 に 鍛 錬<sup>(※1)</sup>高普第 49 回卒 鈴木 尚 広<sup>(※2)</sup>

今回創立 110 周年を記念して刊行される「創立 110 周年記念誌」の一部に掲載される文章作成を依頼され、大変光栄に思う。文章を作るのは非常に不得手であるが、私の高校時代を振り返り、思い出を綴る。



相馬高校の目の前に私の実家があり、物心ついたときから相馬高校野球部を見る機会が多く、昔から白と黒を基調とし「相馬」と大きく胸にデザインされたユニフォームに憧れていた。いつか自分もこのユニフォームを着て甲子園に行きたいと胸の中に思っていた。月日は流れ、高校進学時になると私は迷うことなく相馬高校への進学を決めていた。スポーツ推薦での入学だったのだが、相馬高校の校訓である文武両道を自身の目標とし入学した。

入学して野球部に入ると、基本的な上下関係や礼節、校歌・応援歌を徹底的に叩き込まれる。校歌・

応援歌を酸欠になりそうぐらい全力で何度も何度も歌い、先輩に厳しく上下関係を教えられる。当時は、なんでこんなに野球以外のところで厳しくされなければならないんだと納得できない場面もあったが、振り返ればどれも必要なことだったのだと深く思う。これらは社会人としての基礎や、辛いこと・苦しいことに耐える精神力等、様々なものを養い、その人自身を大きくするものだからである。少なくとも、この時の苦労が今の私を形成していることに違いはない。

入学して1～2ヶ月も過ぎると、段々に野球のできる機会が増えていた。軟式野球から硬式野球に大きく舞台を変え、その新しい世界に触れた時は興奮し、無我夢中でボールを追いかけていた。硬式野球の全てが新鮮であり、野球が楽しくて仕方がなかった。おそらく私の野球人生において、一番純粋に野球を楽しみながら成長できた期間ではないかと思う。もちろん、楽しいばかりではなく過酷な練習があったのも忘れてはいない。特に、夏場の練習は過酷を極め、何度も脱水症状を起こし、ふらふらになりながら野球をしていたのを今でも思い出す。

夏の大会が終わって、3年生が引退する頃には、チームの一員として試合に出場する機会が多くなった。どの試合・大会も思い出深いだが、一番印象に残っているのが1年生時の秋の東北大会出場である。それまでは相馬高校のユニフォームには「福島」の文字はデザインされてなかったが、この東北大会出場により「福島」を背負うことができたのが一番の思い出である。自分達が歴史を作ったという気持ちで本当にうれしかった。

残念ながら在学中は甲子園出場に至らなかったが、卒業してからは本校の甲子園出場の吉報を心待ちにしている次第である。在校生には110年の伝統を真摯に受け止め、誇りを持ってあきらめずにがんばって欲しい。私自身も、相馬高校卒業生としてプライドを持ってプロ野球という舞台で躍進していこうと思う。今後も相馬高校の益々の発展を祈り終わりとする。

(※1) 創立 110 周年記念誌『紅の旗』(2009(平成 21)年 1 月発行)「思い出の記」〈ああ、我らが青春の日々よ〉より

(※2) 平成 9 (1997) 年卒、中村出身。

(転記&※脚注 村山)